

令和五年度（四月）始業式

式 辞

みなさんおはようございます。

校長として着任しました宮田と申します。昨年度までは原市中学校の校長をしておりました。西中学校の皆さんは、大会で会ったときも大きな声であいさつをしてくれたことが印象に残っています。

さて、新三年生、新二年生の皆さん、進級おめでとうございます。今日から令和五年度が始まります。

新型コロナウイルスの感染拡大もようやく収まりマスクの着用の義務がなくなった最初の始業式となります。学校の行事も規制緩和となり様々な教育活動が昨年度以上に展開されていくと思います。

三年生の皆さん、西中学校の最高学年として学校の顔となる立場になりました。この学校の「西中プライド」の生徒合言葉を引き継ぎ、下級生の見本となる活躍を期待します。

二年生の皆さん、午後からの入学式で百八十三名の新入生を迎えます。先輩として、三年生を支える中堅学年として、西中学校をさらに良い学校にするために、いっそう励んで欲しいと思っています。

始業式にあたり話をさせていただきます。

それは、「自分の可能性を信じる」ということです。

アルベルト・アインシュタインを知っていますか。現代物理学の父と呼ばれる彼は、幼いころ、かなりの落ちこぼれの生徒でした。

アインシュタインは5歳まで言葉をほとんど話せなかったと言われています。入学した小学校の先生は、アインシュタインの両親にこう言いました。

「お子さんは、残念ながら知的な仕事には就けないと思います。将来に備えて、今のうちから手に職をつけることをお勧めします」と。

しかし、アインシュタインは、どんな環境に置かれても、自分自身の能力を信じて努力を続けました。

「人間は、神様から選ばれて、一人ひとりが大切な役割を与えられて生まれて生きていくんだ。いつかきつとお前も立派な人間になれるよ」とアインシュタインの父親は、そう何度も言い聞かせていました

そのため失敗しても自信を失わないで、自分自身の可能性を信じアインシュタ

インは努力を続けられたのです

1905年、アインシュタインは「特殊相対性理論」に関する論文を書き上げて、発表しました

そして、アインシュタインはノーベル賞を受賞する学者にまで成長していったのです

何をやってもうまくいかない。仮にそういう時があったとしても、自分自身を信じる気持ちだけは失ってはいけません。

自分の可能性を信じることができるのは自分自身です。勉強や部活動でうまくいなくても自分の可能性を信じあきらめずに努力することを皆さんに願います。

結びに、共に笑顔で学校生活に取り組み、最後まであきらめず、全員の力を結束して、更に素晴らしい西中学校を目指すことを約束し、令和五年度始業式の校長の式辞とします。

令和五年四月十日

上尾市立西中学校長 宮田 純生